

2025年5月1日

社会貢献活動

(1) 本学では、全学組織である「産官学民連携センター」を中心に、教育や研究を通じて実践的な課題解決力を育成し、地域社会と共に新たな価値を創出する取り組みを推進している。平成31(2019)年度に「地域活性化マネジメントセンター」から改組した同センターは、企業・行政・大学・地域など多様な主体と連携し、地域に寄り添いながら社会的課題の解決に努めている。

また、「多摩大学総合研究所」では、企業や行政との受託・共同研究や教育事業を通じて、産官学民連携の実践機関としての役割を担っている。

(2) 「多摩学」において、教育・研究・社会貢献等の各分野において「多摩」地域を積極的・系統的にとりあげ、大学の資源や活動成果を「多摩」地域に還元している。

(3) 全学で「インターゼミ(社会工学研究会)」「現代世界解析講座(リレー講座)」を展開し、経営情報学部では、平成26(2014)年に、多摩キャンパスに地域連携・地域情報発信の拠点「T-Studio」を建設、地域住民を対象とした生涯学習講座やシンポジウムを実施し、「多摩学」を発信している。加えて、「アクティブ・ラーニング発表祭」の開催、「プロジェクト型地域学習」の推進等を実施している。

(4) グローバルスタディーズ学部では、通常の市民講座に加え、英語によるコミュニケーションを重視する特性を活かし、中高教員や児童に対する英語教育支援を積極的に行う等、特色のある活動を学生ボランティアの参画を得ながら行ってきた。平成27(2015)年度に「藤沢市、多摩大学及び藤沢市観光協会との連携等協力協定書」を締結、令和4(2022)年度には「鎌倉市と鎌倉市観光協会及び多摩大学 包括連携協定」を締結し、以降、観光を中心とした地域連携活動を展開し、湘南・藤沢地区における諸課題の解決にも成果を上げている。

(5) 平成29(2017)年度に文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、テーマである「ジェロントロジー(高齢化社会工学)」を「多摩学」の進化形として位置づけてきた。この枠組みのもと、高齢世代が食と農を媒介として社会に参画する新たな形を探究しており、その一環として田植え体験や関連講座を実施することで、地域社会における持続的な貢献を実現している。